

地域と大学の連携を促進するためのしくみに関する考察

秋田大学大学院 学生会員 ○中山 弘治
秋田大学 正 会 員 木村 一裕
秋田大学 正 会 員 日野 智

1. はじめに

地域には厳しい地方財政、少子高齢化の進展など様々な課題が存在しており、今まで以上に多様な主体との連携、とりわけ貴重な人的・知的資源である大学との連携による課題解決が必要とされている。その中で、学生が参加する地域貢献活動は授業の一環から学生の自主的なボランティアまで様々である。

そこで本研究では、地域社会のパートナーである大学が、地域が直面する課題に対しどのように地域と協力すべきかということを明らかにするために、各大学での取り組み状況についての事例調査やインタビュー調査を行い、ボランティアをおこなっている学生とそうでない学生の意識の違いや、大学に求める機能・支援などを把握することを目的とする。

2. 各大学の取り組み状況

秋田県内に存在する4大学、そして県外の大学ではどのように地域のニーズを汲み上げているか、どのように学生に対する支援を行っているかを把握するために事例調査を行った。表1に各大学での取り組みを示す。秋田県内の4大学に関してはインタビ

ュー調査も行った。インタビュー調査の結果、秋田県内にはボランティアセンターのようなものを有する大学は存在しないが、国際教養大学では、全学生にメールを送信し、ボランティア情報を提供するなど、気軽にボランティアに参加できるしくみが存在している。しかし基本的にはどの大学も地域や学生からの要請に対して受け身の態勢であり、十分に連携が取れているとはいえない状況にある。

これに対して、例えば島根大学では入学時に全学生にポイントカードを配布し、活動に応じて獲得したポイントを学用品と交換したり、授業料が免除されたりするしくみが存在していたり、長崎大学では大学応援団という地域の団体や企業、大学のOBなど様々な人たちと連携するしくみが存在するなど、学生にボランティアに興味を持ってもらったり、学生と地域が繋がるきっかけをつくることに力を入れていることが分かった。

3. 学生のボランティアへの取り組み状況

学生のボランティアに対する意識や課題、大学に求める機能・支援などを明らかにするために、学生

表1 各大学での取り組み

大学名	活動
秋田大学	講演会や子どもたちへの体験学習、意見箱の設置(学生用)、病院ボランティア
秋田県立大学	ボランティアサークルによるクリーンアップ、献血推進活動、ボランティア情報の掲示、地域からの意見はホームページから収集
ノースアジア大学	地域からの要請をボランティア部に紹介、交通安全委員会(学生中心)が警察と協力し、交通安全運動の手伝い、法学部教授による無料法律相談会、学童保育に関心を持つ学生が定期的に施設に通い、保育の補助
国際教養大学	全生徒にメールを送信、情報の掲示、バスの手配
関西大学	ボランティア募集情報の提供、サークルや団体の情報交換の場の提供、講習会の実施、ボランティアに関する相談、報告書をホームページに掲載、複数のボランティアサークルが存在
群馬社会福祉大学	ボランティアセンターによる「ボランティアハンドブック」の作成、学生ボランティア委員会広報部による広報誌の作成、年に一度フォーラムを開催
神戸女子大学	高齢者に給食をふるまうふれあい給食、人づくり、健康づくり、まちづくりなどいろいろな側面から地域へアプローチ
名城大学	学生によるボランティア協議会～実務部門、事務部門など
福井県立大学	学生によるフリーペーパー発行、「駅前の魅力」を発信するマップの作成、ブログの運営、企業の訪問、取材→インターネットで公開
長崎大学	大学応援団の募集、学生の修学、就職、学生生活に関する悩みなどの相談、助言、各種研修会開催
島根大学	ポイントカードの配布→活動に応じてポイントを付与し、ポイントは授業料の一部免除、学用品、書籍等に交換

キーワード：ボランティア，連携，学生，地域，大学の支援，センター機能

連絡先：〒010-8502 秋田市学園町 1-1, TEL(018)-889-2368, FAX(018)-889-2975

にアンケート調査を行った。その概要を表2に示す。

表2 アンケート調査概要

調査実施日	2009年1月下旬
調査対象	大学生
配布方法	直接配布
回収票数	81票(未経験者55票、経験者26票)
調査内容	1.ボランティアを行うにあたっての問題点 2.地域の人と活動する場合の不安 3.大学に求められる機能 4.大学はもっと学生のボランティアを支援すべきか

ボランティア経験者(以下、経験者)には活動にあたっての問題点を、ボランティア未経験者(以下、未経験者)には地域の人と活動するとした場合の不安をそれぞれ回答してもらった。その結果を図1、図2に示す。

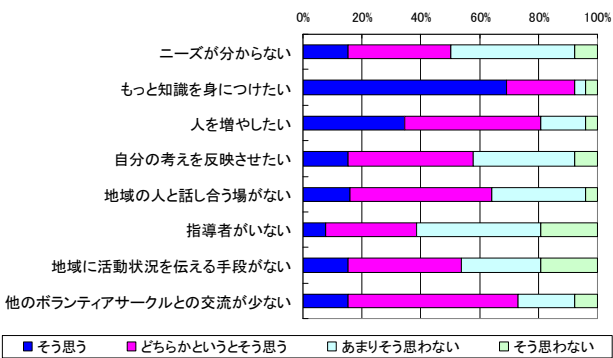


図1 ボランティアを行うにあたっての問題点

経験者が感じる活動の問題点としては、「知識を身につけたい」と回答した人が最も多く、学内外の専門家による講習・啓発機会の充実が望まれる。また、「人を増やしたい」「ボランティアサークルとの交流が少ない」という回答も多いことから、大学による呼びかけや情報提供など、センター的な機能が必要であると考えられる。

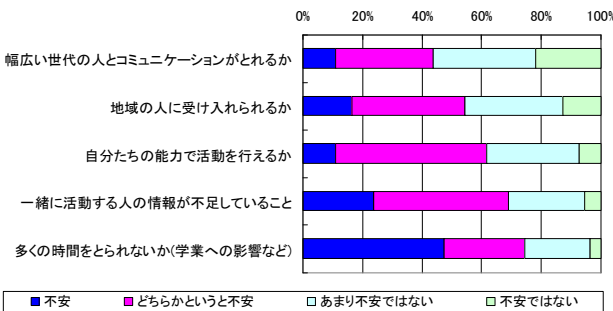


図2 地域の人と活動する場合の不安

これに対して未経験者が地域に対して感じる不安は、コミュニケーションをとることや受け入れられるかといった人との繋がりに関する不安よりも、能力や時間的余裕など個人的な不安の方がやや大きい結果となった。

4. 大学に求められる支援

未経験者に関して、大学に求める支援に関する要素と、そのような支援があった場合のボランティアへの参加意向の指標を用いて数量化Ⅱ類分析を行った。各項目についてのレンジを図3に示す。また、以下のような支援がある場合、ボランティアに参加したい、どちらかというに参加したいと回答した未経験者は80%にのぼった。

経験者には大学に求める支援について回答してもらった。結果を図4に示す。図3では、未経験者はポイントがもらえる項目などが大きな影響を与えることを示しているが、これは未経験者に対しての活動のきっかけになるものと考えられる。それに対して経験者は、ハンドブックの配布や企業との連携に関する支援が必要であると回答した人が多く、対照的な結果となった。

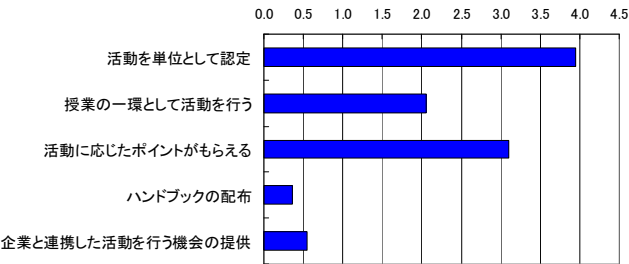


図3 大学に求める支援についてのレンジ

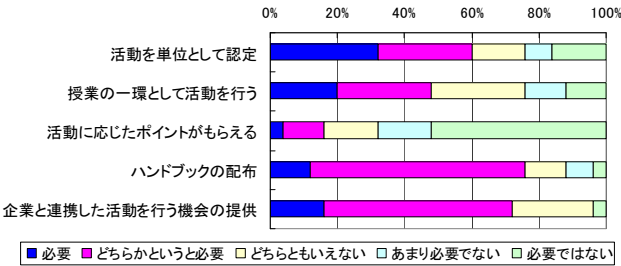


図4 大学に求める支援(経験者)

5. まとめ

事例調査では、他大学ではボランティアに学生が参加するためのしくみに関して様々な工夫がなされていることが分かった。アンケート調査では、学生は地域と連携することに様々な不安を抱えているが、大学が支援することによって大きく行動の転換が期待できることが明らかとなった。そのため大学は、学生や地域に対してボランティア情報の受信・発信や、話し合いの場の提供などセンター的な役割を担い、学生の不安を軽減させ、ボランティアを行うきっかけを与えていくことが重要であると考えられる。